

ARIBの動き

Valery Timofeev ITU-R 局長による特別講演会開催される

去る3月7日、日本ITU協会及び当会の主催による「特別講演会」がメルパルク東京(港区芝公園)において開催されました。

本講演会は、来日中のValery Timofeev ITU-R局長により、ITUの沿革や組織構成の説明に始まり、ITU無線部門における最近の課題として、ITUの国際周波数分配、WRC、研究委員会活動、ITU-R勧告などから見た無線通信の発展の現状と展望についてご講演をいただきました。



Timofeev局長による特別講演会の様子



若尾専務理事、小林常務理事
と懇談される Timofeev局長



Timofeev局長

当日は好天に恵まれ、総務省・鬼頭技術総括審議官、竹田電波部長を始め、定員の150名を超えるご来場があり、満席の会場で熱心に聴講されていました。

「災害対策のためのＩＣＴの役割に関する会合」
(APT・ITU共催)の結果
アジア太平洋地域の防災通信システム構築に向けて

去る２月２８日（月）、タイのバンコクにおいて、APTとITUの共催で「災害対策のためのＩＣＴの役割に関する会合」が開催されました。

本会合においては、アジア・太平洋域内の緊急災害発生時におけるＩＣＴの果たす役割について意見交換を行い、その過程で域内における防災通信システムの重要性について認識を共有しました。会合の成果として行動指針を示した最終文書が合意・発表されました。本文書では、防災通信システムの整備推進、防災通信システム構築に向けた人材育成、技術専門家の派遣等の内容が盛り込まれました。

なお、本会合の結果（最終文書）については、チュニジアにおいて１１月に開催予定のWSIS第２フェーズに寄与文書として提出されます。

１ 会合概要

(1) 開催日

平成１７年２月２８日（月）

(2) 出席者

APT加盟国の通信主管庁及び防災関係者（民間企業等含む）並びにAPEC、IMO及びABU等の国際機関関係者 約３００人

２ 最終文書概要

APT加盟国は、防災に関してＩＣＴが重要な役割を果たすことを学び、これに必要な防災通信システムの域内における普及を図ることが重要であるとの認識に立ち、行動指針を確認しました。

行動指針概要

- ・加盟国は、災害時における情報伝達、情報収集等に有効な防災通信システムの整備、関係機関が連携した防災メカニズムの整備等、ＩＣＴの活用を積極的に推進する。
- ・APTは、域内における情報共有の場を提供するとともに、防災通信システムの構築に向けた関連の人材育成、技術専門家の派遣等の支援を行う。
- ・APTは、加盟国間における災害対策に関するＩＣＴの役割についての情報共有を地域レベル、国際的レベルで推進する。

《参考》

- ・ APT (Asia-Pacific Telecommunity) : アジア太平洋電気通信共同体
アジア太平洋地域における電気通信専門の地域国際機関
- ・ ITU (International Telecommunication Union) : 国際電気通信連合
国連機関の一つで、電気通信に関する国際機関。電気通信技術の標準化及び開発援助等の活動を行うため、無線通信部門、電気通信標準化部門及び電気通信開発部門の3つの部門を持つ。
- ・ IMO (International Maritime Organization) : 国際海事機関
海事に関するあらゆる事項に対する政府の規制及び慣行に関した政府間の協力のための機構
- ・ ABU (Asia-Pacific Broadcasting Union) : アジア太平洋放送連合
ラジオ・テレビの発展を図るための協力を目的とするアジア・太平洋地域の放送機関の連合体
- ・ WSIS (World Summit on the Information Society) : 世界情報社会サミット
各国首脳レベルの参加により、2003年12月（ジュネーブ）及び2005年11月（チュニス）の2回に分けて開催される、情報通信分野では初めての国連サミット

なお、詳細については、http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/050301_5.htmlを参照して下さい。

欧州電気通信 の動き

携帯電話の技術革新進む

【Le FIG-ECO,2005/02/21】

カンヌ3GSMワールド कांग्रेस2005では、携帯電話の技術革新が数多く紹介された。特に注目されたのは、ブロードバンド携帯電話、携帯電話テレビ、ブルートゥース及びWiFiの携帯電話への応用等。UMTS規格の第3世代携帯電話については、サービスが開始して間もないため、去年は650万台から1000万台の端末が売れたに過ぎないが、今後は加速が期待され、通信機器各社は新機種投入を予定している。

欧州における携帯電話テレビの登場も技術革新競争の目玉となる。カラーディスプレイ搭載の携帯電話をモバイルテレビに転換するのが目的。技術的には二つの携帯電話向けテレビ放送規格が争っているが、ノキアが支持するDVB-Hが有力。Etsi（欧州電気通信標準協会）も先頃DVB-Hを標準仕様として採択した。但し、試験使用の開始には、EU各国の政府及び規制機関の許可が必要となる。

また、パソコン用に開発された2種類の無線技術が携帯電話にも応用され始めている。一つはブルートゥースで、仏サジェムはこれを利用したワイヤレスのハンズフリーヘッドセットを提供。携帯電話とパソコンの間でのワイヤレスでのデータ交換などを目的に技術の改良が進められている。もう一つは、WiFiをはじめとする無線LAN技術で、携帯電話とブロードバンド・ネットワークの接続を可能にするが、WiFiを使うと、自宅や職場から携帯電話事業者を介することなしに、ノートパソコンで通信が可能になるため、WiFiは携帯電話事業者にとって危険性を秘めている。

携帯電話端末利用のデジタルテレビ受信、準備進む

【La Tribune,2005/02/17】

携帯電話端末を利用したテレビ放送受信の実用化を探る動きが活発化している。2004年11月には、産業省の主導で、電話会社や放送事業者等を集めたフォーラムが発足、将来の携帯電話テレビの規格として、DVB-Hを推進することが決まった。カンヌで開催された携帯電話見本市では、ディブコム社がDVB-H対応のチップをリリース、TDF（テレビ・ラジオ送信事業者）は、会場等で携帯電話端末向けテレビ放送のデモンストレーションを行った。TDFは現在、フィンランドのヘルシンキでノキア社と協力し、子会社を通じて実験放送を行っている。フォーラムは、同様の実験を仏でも5月に開始する方針で、視聴覚最高評議会（CSA）に対して地上デジタル放送の周波数を利用した試験実施を申請している。但し、本格放送開始に当たっては、周波数の確保が可能であるのかどうか、そして誰が放送事業者になるのかなど、今後詰めるべき問題が数多く残されている。

編集後記

先週末は、愛知万博の開幕を始め、FIFAワールドカップアジア予選などの盛り上がりを見るにつけ、春の活気を感じる今日この頃ですが、日本の春分の日（3月21日頃）がイランの元旦なんて、奇しくも面白い組み合わせでしたね。イランでは客間の正面に鏡を飾り、その前に穀物やヨーグルト、卵、麦の苗などをお供えし、女性は美しく着飾り、13日の「カラジの日」には、家族揃って河畔で1日を楽しく過ごすという風習があるそうです。

さて、3月のその他の行事といえば、3月3日の雛祭り、3月14日が“バレンタイデー”のお返しの“ホワイトデー”ですが、当A R I B内では、近頃の職員構成上（？）のためか、盛り上がりは今一で、春本番とはなかなかいかないものです。

ところで、その後の4月14日の“ブラックデー”はご存知ですか？韓国で生まれた記念日で、恋人がいない友人同士で集まり、黒い服を来て、真黒いソースの“チャジャンミョン”（韓国風ジャージャー麺）を食べて盛り上がる日だそう

です。韓国の若者の間では定番化していて、暗く重たい気持ちを“黒”という色にたとえ、さみしい気持ちを吹き飛ばすよう“チャジャンミョン”を食べて過ごすというユーモアが込められているのだとか。仲間同士で祝うのも楽しそうですが、ヨン様ブームは兎も角、若者にはこの韓流ブームだけには乗らず、恋人同士で記念日を過ごして欲しいものですね。

(編集子：SUM)

[ページの先頭に戻る](#) ▲